

喜多方市立小中学校適正配置等検討委員会幹事会で出された意見について

- 1 日 時 令和2年12月21日(月)午後3時～午後5時
- 2 開催場所 第二委員会室
- 3 内 容 1 開会
2 幹事長あいさつ
3 協議
(1) 喜多方市立小中学校適正規模適正配置実施計画(案)たたき台について
(2) 今後のスケジュールについて
4 その他
5 閉会

4 出された意見

	出された意見	対応
1	長期人口ビジョンで人口減少が予想されていると思うが、児童生徒数について、推計値に人口減少分を見込む考えはないのか。	別紙「地域設定(学区)と学校規模のシミュレーション」の各パターンに記載している「将来(2060年)の児童生徒数、学級数等」については、市長期人口ビジョン平成27年9月(第1版)に基づき推計したものである。 長期人口ビジョンについては、令和元年12月に改訂(第2版)されている。将来展望人口の推計を見ると、総人口、5～9才、10才～14才について第1版よりも推計値が増加し、5～9才、10才～14才の合計は80人増加している。この人数を小中学校の数(24校)で除すると1校あたり約3.3人であることから、地域設定を検討するにあたって大きく影響はないものと判断し、基本方針で使用した児童生徒数の推計を継続して使用することとしたい。
2	たたき台P1 現在でも2km以上の通学距離となる小学校があると思うが、2km以上はスクールバス等の対応となるのか。また、かなりの本数が必要と思われるが、本数の想定はでているのか。	スクールバス等について、市内全域で距離、手段の統一について前倒しで検討していることについて説明。 2km以上となれば、スクールバス等を想定することになる。本数等については、検討の段階である。 資料の修正はない。
3	たたき台P2 平均速度について、平均速度に加え、地形等についても追加した方、説明がつくのではないか。	たたき台P2 22行目 「以上により、小学生については、通学距離の目安を2km以内とする。中学生については、自転車速度に基づく距離数おおむね8.5kmとなるが、6km以内であれば大幅なストレスの増加は認められないという研究結果があり、生徒の負担軽減の観点からも、国の手引に示されている目安を参考に、おおむね6km以内とする」を「歩行速度からは以上のような結

		果となるが、小中学校とも、通学路の高低差等の地形を考慮することとし、中学生については、自転車速度に基づく距離数おおむね 8.5 kmとなるが、6 km以内であれば大幅なストレスの増加は認められないという研究結果があり、生徒の負担軽減の観点からも、国の手引に示されている目安を参考とすることとする。このことにより、小学生についてはおおむね 2 km以内、中学校についてはおおむね 6 km以内とする。」に修正する。
4	たたき台 P5 3 学習効果を高める仕組みづくりの検討の視点の説明文中、学校スタイルについて、基本方針と同じ記載にした方が良いのではないか。	たたき台 P5 下から 3 行目 学校スタイルの前に「小中一貫教育校、義務教育学校などの」を追記する。
5	別紙シミュレーション総括表 もう少しわかりやすくした方が良いのではないか。	別紙シミュレーション総括表について 各パターンに該当ページ番号を追加する修正を行う。
6	別紙シミュレーション 図面（地図）に示されて青線、オレンジの線は何を意味しているのか。	別紙シミュレーション地図 線については、遠距離が想定される地区から概ね 10 km 地点を表示したもの、今後、地図については線を削除し、修正を行う。（定例教育委員会、総合教育会議まで間に合わせる。）
7	たたき台 P9 上三宮小 児童に与える理由の最後に記載されている理由は主観的で、客観的でないことから、削除した方が良いのではないか。	たたき台 P9 8 行目 指摘のとおり、客観的な理由でないこと、他の児童数が少ない学校でも発生している可能性があることから、削除することとする。

その他	語句や表等に関し、修正が必要と思われる箇所については、それぞれ修正を加えた。
-----	--